



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 12

(2022年2月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

製糸工場の煙突^{えんとつ}

富岡製糸場内でいちばん高い建造物は煙突です。現在の煙突は4代目で、高さは約37.5mです。また、富岡製糸場が創立したころの錦絵にも大きな煙突が描かれていることや、県外出身の工女が富岡に向かう道中で「段々参り^{ます}舂と高き焼筒が見えました。(富岡日記/和田英^{えい}著)」とあることから、煙突は当初から象徴的な建造物のひとつであったといえるでしょう。

煙突と製糸工場は密接な関係にあります。かつて数多く存在した製糸工場ですが、そこには必ずと言っていいほど煙突が建っていました。その理由は、製糸工程にはたくさんの蒸気を使うことにあります。

蒸気は、繭の乾燥や繭を煮るための熱源として使われました。蒸気を使う理由は、温度の調整がしやすいことや、パイプを通して工場内の隅々まで届けられることなどがあります。その他、初期の富岡製糸場では、繰糸器の回転動力などを担うブリュナエンジンも蒸気力で動いていました。

このように、製糸工程に欠かせない蒸気は、ボイラーで石炭などを燃やして発生させました。燃料を効率よく燃やし、排出ガスが地表や屋内に広がるのを防ぐことが、煙突の主な役割です。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

